

「宮川研究室 3 期生 卒業論文発表会」

蔵下 佳奈絵

2月21日、学術情報総合センターにて、私たち3期生のゼミ活動の締め括りとなる卒業論文発表会が行われました。1人1人たくさん思い悩み、壁にぶつかりながらも、必死になんて書き上げた渾身の論文9本が発表されました。

4回生になり各々が興味があるテーマを決定し、たくさんの先行研究を読み、データを集め、言葉を重ね、論文を完成させてきました。宮川ゼミでは4回生の後期になると、ゼミの時間にそれぞれが卒業論文の草稿を持ち寄り、自分がいまどのくらい進んでいて、どこに悩んでいるのかを報告し合い、先生やゼミ生からアドバイスを頂きます。そこで、3期生がテーマが定まらなかったり、思うような検証結果が出なかったりして悩んでいた様子を見ていたからこそ、今回の卒業論文発表会で完成した卒業論文のプレゼンテーションを聞くと、非常に感慨深い気持ちになりました。私自身も、卒業論文の執筆は一人で行いましたが、書き上げるまでには先生や3期生、4期生のたくさんのアドバイスがあり、そのアドバイスが大いに論文に反映されているため、その論文をみんなの前で発表することが出来て良かったです。

卒業論文の指導にあたり、宮川先生が仰っていた言葉で印象に残っているものがあります。それは、「論文と向き合い、言葉を尽くすこと」です。自分が考えていることを相手に分かりやすく正確に伝えるために言葉を尽くす。普段論文を書くことがほとんどない私たちにとって、これはなかなか大変なことでした。しかし、今回の卒業論文発表会で3期生の発表を聞き、それぞれ言葉を尽くした論文を書き上げることが出来たのではないかと感じました。

それぞれ発表が終わった後には、3期生からのコメント、3.4期生からの質問、宮川先生からのコメントの時間がありました。私の論文に対してはさきほがコメントをしてくれたのですが、簡潔に私の研究の内容をまとめ、感想を述べてくれました。私の論文をどんな風に聞いてくれていたのかが分かり、発表した甲斐があったなあと感じました。4期生からの質問はざっくばらんなものからハッとするような指摘まであり、3期生にとっても4期生にとっても有意義な時間になったと思いました。そして、宮川先生からはこれまでの過程も踏まえ、コメントをいただきました。私たち3期生に最後まで向き合い続けてくださった宮川先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。

卒論発表会の後は、1.2期生も加わり、宮川先生のアメリカ行きの壮行会をいわし亭にて行いました。卒業生から現役生までが集まり、明るく楽しい宮川ゼミらしい壮行会となりました。最後に、ゼミ生から宮川先生へのメッセージと日本の味が思い出せるお茶とお吸い物を贈りました。アメリカでもパワフルな宮川先生で頑張ってください！そしてまた、来年の宮門会で様々なお話を聞けることを楽しみにしています。

卒業論文発表会から壮行会まで非常に充実した1日でした。最後となりましたが、宮川先生、ゼミ生のみんな、本当にありがとうございました。